011年9月

小出俣川　センノ沢

２０１１年９月２３日（金）
メンバー　：　志満（Ｌ）、斉藤、
後藤（記）

９月１７日からの秋の沢集中は前線停滞の長雨で中止となり、８月から一月以上 沢から遠ざかっていた。２３日に志満さん、斉藤さんの大源太川　鷺ノ首沢の計画があるとのことで、参加をお願いし参加することとなった。

しかし上越国境　新潟側は長雨が続き天候が芳しくないとのことで、小出俣川センノ沢へ変更となった。

沢が変更になったものも、以前積雪期に２回、小出俣山辺りの尾根歩きをしたことがあり、小出俣川の谷はどんなものか興味があった。

斉藤さんの車で２４時ジャストに水上ICを通り、川古温泉駐車場に向かった。

９月２３日（晴）

７時前に駐車場から千曲平へ向かう林道に入った。１時間２０分程歩くと林道は終点となり、どうも千曲平を通り過ぎてしまったようだ。少し戻り橋から小出俣川右岸に付けられたかすかな踏み跡を辿る。ヒルが１匹運動靴に取り付いていた。４０分程で松ホド沢の出合。身支度を整えようと脛を見ると丸々と膨れたヒルがへばり付き、指で払うと簡単に取れた。吸い跡からの出血は全くなく、充分に吸うと出血は無いのか？

沢に入り暫く歩くと勾配が小さく、幅が大きな開けたナメが現れた。ナメは中央部が凸状になっており、ナメ全体を水が覆うように流れ岩と清流の組み合わせが美しかった。記録ではこのナメは「大ヒラナメのセン」と呼ばれ長さは２００ｍとのこと。

暫く行くと小センノ沢の出合に掛かる７，８ｍの滝、最初のロープを出し志満さんリードで右を登る

大ヒラナメのセンを歩く志満、斉藤さん

滝をリードする志満さん

。

１時間ほどでマチホド沢の１００ｍ大滝を見上げる出合に着く。この長雨のせいか大滝の落ち口からは、水が勢いよく噴出していた。左のセンノ沢に入り幾つかの滝を越えて行くと２０ｍほどの滝が現れる。２回目のロープを出し、斉藤さんトップで右から登る。

小滝や30ｍの滝を過ぎて行くと、２０ｍほどのチムニーを流れるトイ状の滝と

なる。右側リッジを３回目のロープを出し、斉藤さんトップで滝口に降り立つ。

すぐ上のチェックストーン滝を越えると、傾斜のあるナメ滝や階段状の滝が続く。傾斜が強くつま先たちで登るようになり、久し振りの沢登りなのか、かなり疲れてくる。先行の志満さん、斉藤さんから遅れ、何回も待ってもらうような登りとなった

沢筋の水は涸れ、２０分程の笹薮を行くと地形図の１６２１ｍのピークの北東のコルに１５時頃に出るこことが出来た。コルの北側の十二社ノ峰には標高と山名が記された標識が置かれていたので、尾根筋にはハイキングの登山道があると思っていたが、踏み跡すら見当たらない薮尾根だった。この尾根は積雪期にしか歩けないことがわかった。

コルからイラクボ沢を下降し赤谷林道までの沢下降。途中一ヶ所４回目のロープで１２，３ｍ程の懸垂下降。下降場所の岩は途中えぐられており、空中に勢いよく飛び出すと体が降られ　太さ７，８０Cm、長さ５，６ｍ の流木の上に着地、不安定な流木はこの衝撃で谷筋を転げ落ちて行った。先に下降した斉藤さんは下降点より２０ｍほど下で待機していたので事なきを得た。体が降られるような懸垂下降では、どの辺りに着地するかはっきりしないので着地場所付近の状況確認が必要。

１８時、何とか明るいうちに林道に降りることが出来た。運動靴に履き替え、林道はヘッデン頼りにひたすら歩き２０時過ぎ駐車場に到着。時間が遅かったので、志満さん購入の日帰り温泉入浴マップで調べていた近くの温泉入浴は残念ながら断念。

コースタイム

９月23日

川古温泉駐車場(6:.50)一千曲平(8:20) － 松ホド沢出合(9:10/30) － マチホド沢出合(10:20/40) － コル(15:10/20) － 赤谷林道(18:00/30)－川古温泉駐車場(20:15)

地形図(1/25000)

水上、三国峠

マチホド沢100m大滝

20m滝を登る斉藤さん